

● 防災教育 ●

主体的に周りや地域に関わる中学生の育成 地域との協働で進める防災学習や交流活動を通して

宮崎県 延岡市立旭中学校（校長 石川喜美子）

- ① 地域の方と協働で進める防災学習及び地域団体と進める交流活動を通して、生徒に新たな人間関係構築の場を設定し、積極的に周りに関わる態度を育てるとともに、地域の一員としての自覚を高める。
- ② 外部講師や地域人材の積極的な活用によって、生徒の納得と生きた学力につながる充実した学習活動を展開する。
- ③ 少人数グループで考え方話し合うなどの協働的な学習を展開したり、体験活動を取り入れたりすることで、学びに向かう主体的な態度を育てる。

はじめに

延岡市は宮崎県北部に位置し、海・川・山の自然に恵まれた県北の中心都市である。戦後旭化成の企業城下町として発展し工業都市としてのイメージが強かったが、2007年に北川町・北浦町・北方町と合併してからは、農林水産資源の魅力も大いに期待されている。東九州自動車道の開通をきっかけに、訪れたい延岡市作りに市全体として取り組んでいる。

本校は市の中心部に位置し、近隣にJR延岡駅、日本一の弘法大師像、世界最先端の技術を擁する旭化成の工場がある。

大師祭りをはじめとする伝統文化を守る町、地元企業から世界を見る能够性のある町、延岡駅を中心に今後の活性化が期待される町に立地する本校は、生徒が故郷に誇りをもち、自分の将来を考えていく上で、恵まれた環境にあるといえる。

I 研究の概要

1. 研究主題

主体的に周りや地域に関わる中学生の育成
～地域と協働で進める防災学習や交流活動
を通して～

2. 主題設定の理由

メディア漬けがもたらす中学生の基本的生活習慣や社会性の欠如、人間関係作り（コミュニケーション力）に関する問題が危惧されている。

本校においても、メディアと接する時間が長い生徒も多く、それ以外の生活と言えば部活動や塾、習い事に要する時間がほとんどで、学校以外で社会性を育てる機会や経験そのものが乏しい状況で、危惧されている諸問題は本校生徒の課題でもある。

そのような中、一昨年の熊本地震は改め

て過去の自然災害で得た教訓を想起させ、災害時における地域コミュニティの力や中学生の活躍の期待を高めることになった。

文部科学省が推進するE S Dにおいても、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むことを必要とし、社会情勢から育むべき人間の姿と重なっていることがわかる。

本校生徒は明るく素直で、生徒同士の人間関係も概ね良好である。学校行事などでは同じ目標に向かって素直に努力できる生徒が多い。また、保護者をはじめとする地域の学校教育への关心や理解が高く、協力体制も確立している。

恵まれた教育環境ではあるが、裏返すと刺激が少なく、周囲の温かい理解のもと、特に自分からの働きかけがなくともなんとかなる環境にもなっている。それ故に、ラベリングされた人間関係の中では、新たに自分づくりに消極的であったり、多角的・発展的に物事を見たり考えたりすること、学習活動に課題意識をもって主体的に取り組むことや新たに人間関係を構築していくことに課題をもつ生徒もいる。

そこで、本校生徒に期待したい姿を「主体的に周りや地域に関わる中学生」とし、その姿を目指して本校生徒がクリアすべき課題は、次の2点であると考えた。

- 新たな人間関係を構築していくコミュニケーション力
- 主体的行動力

これらの課題をクリアしながら、地域を見る目を育て、将来地域コミュニティを支える人材として育っていくことが教師や地域の願いである。元気な中学生が地域を気にし、それがコミュニティの活力になり、学校教育からできる地域振興の一助となる

のではないかと考えたのである。

課題を解決するためのツールとして、防災学習や第1学年の地域交流会、及び地区的青少年育成協議会が主催する諸行事を設定し、これらの学習や行事のねらいをうまくつなぎ、本研究に取り組むこととした。

さらに、本研究は、主題研究で取り組んできたキャリア教育と重なる部分も多く、相乗効果を期待できる内容である。

また、現在準備を進めているコミュニティスクール設置に向けて、地域の学校教育への理解と協力を広げていく意味でも価値ある研究と考えた。

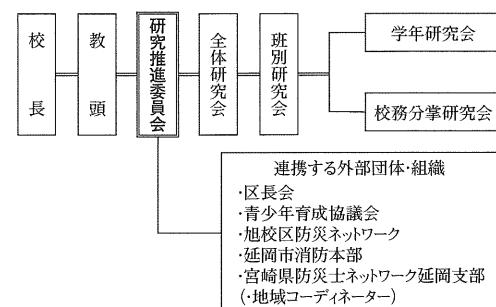
3. 研究の目標

- (1) 人間関係を構築していくコミュニケーション力や主体的行動力を伸ばす学習活動の在り方を探る。
- (2) 地域や外部講師と協働で進める学習活動の在り方を探る。

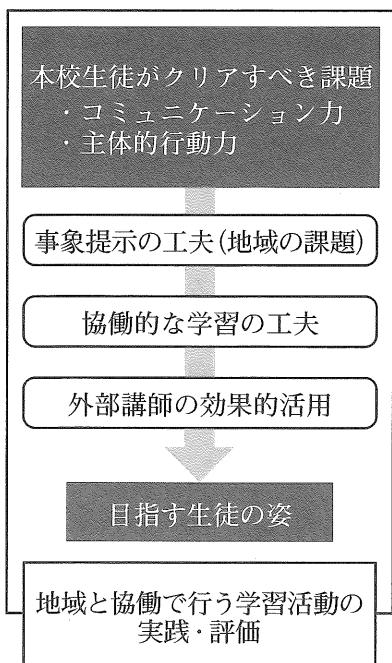
4. 研究仮説

地域と協働で行う学習活動において、地域の課題を取り上げるなど事象提示を工夫し、協働的な学習活動を開拓していくれば、コミュニケーション力を伸ばし、主体的に学びに向かい、周りの人や地域に関わろうとする生徒を育てることができるであろう。

5. 研究組織



6. 研究の構想



II 研究（取組）の実際

本研究では、防災学習や地域との交流活動を通して、目指す生徒の姿に近づけていきたいと考えている。これまでには、それぞれの学習を関連付けるという意識があまりなく、1つ1つの学びがその時その時で完結してしまうものであった。

そこで今年度は防災学習を中心におき、他の学習活動やそこに関わる生徒や地域の方々が有機的につながっていくことができるよう、次のような取組を行った。

1. 危機管理研修の見直し

目標達成に向けてのツールの1つとして防災学習を挙げているが、指導する教師側の危機管理に関する意識の低さ、知識やスキルの未熟さも課題の一つである。そこで、今年度は、毎年行っている危機管理研修を

見直し、特に防災面に重きを置いて研修を行った。

(1) 防災教育研修 [その1]

2学期に行う防災学習や防災訓練に備え、以下の内容で講義を受けた。

- ① 熊本地震の実情と復興状況
- ② 地域と連携した避難所運営、及び教職員の役割…グループワーク「避難所開設にあたっての組織づくりはどうあればよいか」
- ③ 防災学習の進め方

(2) 防災教育研修 [その2]

防災教育を行うにあたって、教師側が身につけておきたい知識とスキルの研修を行った。

- ① 水難救助法（実習）
溺れた時の対処法、身近な物を使った救助の仕方を体験した。



◆ 速い流れの水の中での移動訓練

② 飯盒炊爨（実習）

研修では、薪で火を熾し飯盒と空き缶での炊飯を行った。

- ③ ファーストエイド（講義・実習）
ファーストエイドキットの紹介と、マネキンとAEDを使って心肺蘇生の実習を行った。
- ④ ロープワーク（実習）

災害時、救助や避難所のテント設営等で役立つ、ロープの使い方・結び方の実習を行った。



◆ ロープワーク

2. 総合的な学習の時間に行う防災学習

昨年度からおもに総合的な学習の時間を使って取り組み始めたが、まだ2年目ということで、旭中学校として3年間の学習活動をどのように組み立てていくかについては模索中である。

今年度は、防災訓練を含め全体あるいは学年のねらいに沿って、つながりのある学習を充実させ、生徒一人一人が当事者意識をもって取り組んでいくような学習の在り方について、各学年で話し合い学習を進めた。第1学年の取組のみ紹介したい。

(1) 考え方

第1学年では、「災害に適切に対応する能力の基礎を培う」という防災教育のねらいと「知識・思考・判断」、「危険予測、主体的な行動」、「社会貢献、支援者の基盤」の3観点を意識しながら学習計画を立てた。また、授業プランの作成から実際の授業を、延岡消防本部と協働で進めた。

防災学習を実施する総合的な学習の時間

は、学年全体で一斉指導することとし、毎時間グループ編成を行い、多様な考えに触れることができるようにした。

実際の授業では思考ツールを使った話し合い活動や、ICT機器を活用した情報発信・共有の場を設け、協働的な学習を展開し、コミュニケーション力・主体的行動力の向上を図った。

(2) 具体的な取組

学習は全6講座で構成し、1~4講座を学習の流れに沿って、学年職員4人が分担して授業を受け持つことにした。また、2~4講座には、延岡消防本部防災推進委員、警防課職員に外部講師として参加していただき、TTで授業を進めることにした。

① 第1講座

[テーマ] 自然災害の特徴と被害

[ねらい]

- ・ 自然災害発生のメカニズムや自然災害が人々の生活に与える影響について理解させる。
- ・ 過去に延岡市で起きた自然災害を知り、身近なところに危険があることに気づかせる。

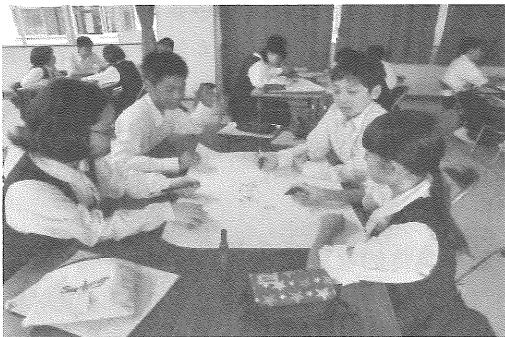
[学習活動]

- ・ 自然の恵みと災害の二面性について考える。
- ・ (グループワーク) 班で分担して「台風・大雨」、「地震・火山噴火」から連想されることを考え、ウェビングマップを使って整理していく。
- ・ 出された意見をグルーピングし、学習課題を設定する。

[指導の工夫]

- ・ 当事者意識をもたせるため、延岡市や宮崎県で起きた自然災害の例を取り上げ、スライドで提示した。

- ・ ウェビングマップを使って話し合い活動を活発にし、思考を整理しやすくした。第2講座も同様に進めた。



◆ グループワークの様子

② 第2講座

[テーマ] 減災と日常の備え

[ねらい]

- ・ 自然災害（地震）が起こる前にできる準備と心構えや、起きたときに身を守るための方法や行動について理解させる。

[学習活動]

- ・ （グループワーク1）地震が起こったらどのような被害を受けるか、班で話し合いウェビングマップを使って整理していく。
- ・ （グループワーク2）被害を減らすにはどうすればよいか考え発表する。
- ・ 地震が起きたときに身を守るためにできることを皆で考える。

[指導の工夫]

- ・ 防災推進委員との協働による授業を行い、生徒の意見に対して適切なコメントや詳しい説明を頂いた。
- ・ 一般家庭に備えてある非常持ち出し袋を用意し、生徒の防災意識の向上を図った。
- ・ まとめの際に、熊本地震の避難所の

映像資料を視聴し、次の学習の方向づけをした。

③ 第3講座

[テーマ] 避難時の行動

[ねらい]

- ・ 避難の仕方や備えておくべきものについて理解する。
- ・ 避難所で自分たちにできることを考えさせる。

[生徒の学習活動]

- ・ 避難の際持っていくものを考える。
- ・ 避難所で困りそうなことを考える。
- ・ 避難所で中学生ができるなどを考える。
- ・ 熊本地震の避難所の映像資料を見て、再度避難所で中学生ができるなどを考える。

[指導の工夫]

- ・ 防災推進委員との協働による授業を行い、生徒の意見に対して適切なコメントや詳しい説明を頂いた。
- ・ 厳しい状況を実感させたり、自分の考えを確認したりするために、熊本地震の避難所の映像資料（報道番組）を活用した。

④ 第4講座

[テーマ]

地域の一員としてできること ① (水害に備えて土のう作り)

[ねらい]

- ・ 身近な地域の過去の自然災害を知り、備えについて考えさせる。
- ・ 土のうの役割を知り、つくり方や積み方を体験して理解させる。

[学習活動]

- ・ 校区内で予想される自然災害について

て地区の地理的特徴から考える。

- ・ 災害への備えの一つの「地域点検」の意義や土のうの役割を考える。

[指導の工夫]

- ・ 延岡消防署員との協働による授業を行い、専門的見地で指導を頂いた。
- ・ 延岡市のハザードマップを使って、身近な地域で予測される災害について理解させた。



◆ 土のう作り体験

⑤ 第5講座（地域防災訓練）

[テーマ]

地域の一員としてできること ②

[ねらい]

- ・ 身近な地域（延岡市、富美山地区）の過去の自然災害を知り、地域を知ることや備え（身・物・心）の必要性を理解させる。
- ・ 実際の地域点検を通して、地域の良い所や悪いところを知り、自分の対応（行動）を考えさせる。

[学習活動]

「3. 地域とつながる防災訓練」に記載

[指導の工夫]

- ・ 地域の方にこれまでの学習の経緯を理解していただくために、第4講座までの学習の内容や生徒の活動の様子をまとめた掲示物を作成し掲示した。

- ・ 報告会では、ポスターセッションの発表形式をとり、聞き手は5分ごとに班（場所）を移動して聞くようにした。
- ・ コミュニケーション力の向上を目指して、報告会では一つの班が5回ずつ発表することで、班員全員に発表の機会を設けた。

⑥ 第6講座

[テーマ] 防災学習のまとめ

(防災マップ・レポート作成)

[ねらい]

- ・ 防災マップや学習レポートの作成を通して、災害への適切な対応を再確認するとともに、地域の一員としての自覚を高める。

[学習活動]

- ・ 収集した情報をもとに防災マップを作成する。
- ・ 防災学習の学習レポートを各自作成する。

[指導の工夫]

- ・ 防災マップは、2部作成させ、1つは校内掲示による他学年との情報共有、もう1つは点検した10地区へ送付し、地域との情報共有に活用した。その後、生徒からの提案に対して、地域からの回答も寄せられ、生徒たちのやりがいや互いの理解につなげることができた。



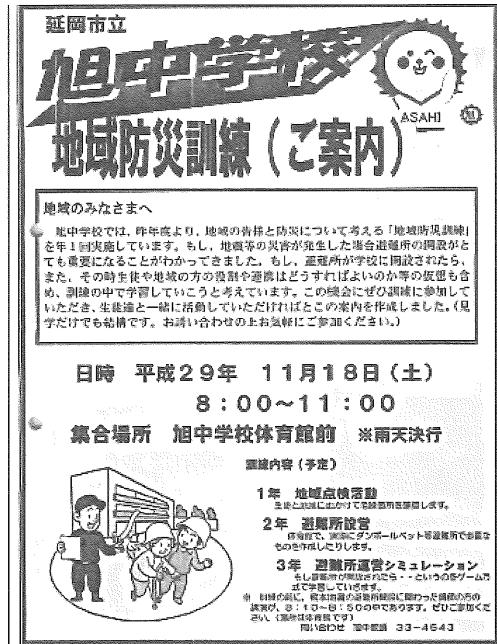
◆ 防災マップの作成

3. 地域とつながる防災訓練

(1) 考え方

東北地方太平洋沖地震や熊本地震による被害の記憶がまだ新しい中、南海トラフ大震への備えが叫ばれている。加えて毎年のように起こる局地的大雨による土砂災害は一層の不安をあおっている。そのような状況下、学校における防災教育の重要性や災害時における地域コミュニティへの期待がますます高まっている。自然災害に備えて、自助・地域コミュニティの共助の必要性は言うまでもないが、まずは地域コミュニティ成員の生徒一人一人が当事者意識をもつことこそ大切であると考える。

そこで本校では、以下の3つの柱のもと3年間を通して学習を行う中で、在校中・卒業後を問わず災害発生時に避難中や避難所において主体的に避難所運営に関わることのできる生徒を育成したいと考えた。さ



◆ 防災訓練案内のプリント

らに、旭校区防災ネットワークやPTAを通して地域の方へも参加を呼びかけ、それによってできるつながりがコミュニティスクールの基盤となることも期待している。

(2) 3つの柱

① 災害想定

富美山地区を中心に災害発生時の危険箇所を想定し、地域点検を行う。

② 避難所開設

避難所指定を受けている旭中学校体育館において、中学生ができる学ぶ。

③ 避難所運営

避難所を学校で運営した場合に起こる出来事を、カードを用いて学ぶ。

(3) 活動のねらい

- ・ 災害時においては、他者との関わりや協力が重要であることを理解し、地域の人々も含めたコミュニケーション能力を高める。
- ・ 判断力と決断力が求められる災害時において、過去の経験や既習事項をもとにして、あらゆる事態に対応できるよう、積極的避難者としての資質を養う。

(4) 地域との連携

○ 事前準備

- ・ 旭校区防災ネットワークの会議に中学校の担当職員も参加し、一連の防災学習への取組や地域防災訓練の趣旨説明を行い、参加への協力をお願いした。

- ・ 区長は、それぞれの区の住民に説明し、参加の呼びかけを行った。

○ 当日の運営

- ・ 教頭と地域コーディネーターが受付を行い、旭校区防災ネットワークの役員で参加者を3学年に割り振った。

(5) 当日の活動

① 講 演

『生徒・地域の防災教育の在り方』

熊本地震の被害の状況や避難所の様子、復興の様子等実体験を交えて、防災意識を高めるための講話を実施した。

② 学年別活動 ※詳細は次の(6)～(7)

(6) 第1学年の取組 「地域点検」

講師：延岡消防署警防課

① 地域点検についての生徒及び地域の方への説明

ア 経路の確認

イ 視点の確認

- ・ 危険性のあるところ
- ・ 良いところ

② 地域点検 10地区10班に分かれ、地域の方が案内役となって、一緒に点検活動を行った。

③ 報告会

④ まとめ



◆ 地域点検の様子

(7) 第2学年の取組 「避難所開設訓練」

講師：原田秀夫 氏

① 説 明

② 演 習

ア パーティション、簡易ベッド作成

イ 受付・物資受け入れ設営

ウ ゴミステーション・簡易トイレ作成

エ 簡易担架作成

③ 振り返り…クロスロードゲーム

④ まとめ…ワールドカフェ

(8) 第3学年の取組 「避難所運営ゲーム」



◆ 簡易担架で人を運んでいる様子

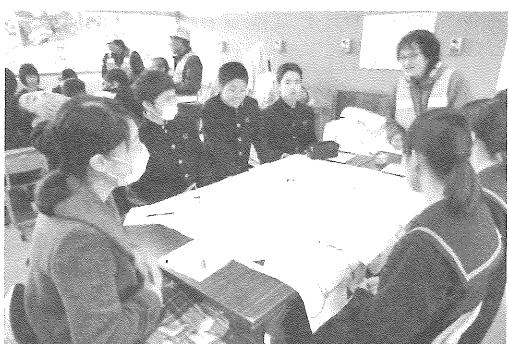
講師：宮崎県防災士ネットワーク

① 説明

② 避難所運営ゲーム実践

③ まとめ

4. 地域交流会



◆ H U G 避難所運営ゲームの様子

(1) 考え方

本校では以前より第1学年を対象に地域交流会を実施してきた。これは、日頃よりお世話になっている地域の方への感謝の気持ちを表すとともに、生徒たち一人一人に地域社会の一員としての自覚を高めること

を主なねらいとしている。

さらに、良い交流会となるよう、生徒たちが考え工夫して企画・運営していく中で、主体性や創造性を伸ばそうとするねらいもある。

また、地域の方と交流する中で、課題である新たな人間関係を構築していく上でのコミュニケーション力を伸ばす機会とも考えている。

今年度は、これまで地区青少年育成協議会主催で毎年実施してきたグラウンドゴルフ大会とタイアップして実施した。

(2) 地域との連携

○ 事前準備

- ・ 区長会に学年主任が参加し、趣旨説明を行い、参加への協力をお願いした。
- ・ 区長は、それぞれの区の住民に説明し、参加の呼びかけを行った。
- ・ 地区青少年育成協議会とグラウンドゴルフ競技の運営、豚汁作りについて打ち合わせを行った。
- ・ グラウンドゴルフ用具の借用について延岡市社会福祉協議会に依頼した。

○ 当日の運営

- ・ 地域からの参加者のチーム分け、グラウンドゴルフ競技の運営は地区の役員が行った。
- ・ 豚汁作りの指導・運営は地区青少年育成協議会及びPTA地域部が行った。

(3) 具体的な取組

① 事前準備

- ア 実行委員会によるプログラム作成と事前準備等の検討、役割分担
- イ 招待状の作成
- ウ 座談会での質問の準備
- エ お土産（しおり）づくり

② 当日の活動

- ア 始めの会
- イ 交流会（グラウンドゴルフ）
並行して豚汁作り
- ウ 豚汁を食べながらの座談会
- エ 終わりの会

5. 小中連携行事（門松作り・餅つき）



◆ 地域の方と豚汁作り

(1) 考え方

本校は、一小一中という特色を活かし、小中連携を積極的に行ってきた。中学生に様々な場面で発表の機会を与えることにより、主体的に行動できる生徒を目指すことと、小学生にとって良きお手本・憧れの存在になることを主なねらいとしている。

その一つの行事に門松作り・餅つき大会がある。例年、地区青少年育成協議会主催で行われている中に、今年度は準備段階から、中学生が関わり企画・運営に当たった。

○ 事前準備

- ・ 門松作りのための竹や縄を決まった長さに切る、材料の組作り

○ 当日の運営

- ・ 小学生家族の門松作りのサポート活動
- ・ 餅つきの手本及び小学生への指導
- ・ つきたて餅をいれたぜんざい作り
- ・ ぜんざいやきなこ餅を食べながらの小中交流会

(2) その他の関連活動

小中のつながりを強くするための取組として、合同あいさつ運動、合唱コンクール最優秀クラスの音楽集会への参加、読み聞かせボランティア、中1生の先輩の声を聞く会などが挙げられる。

III 研究（取組）の成果と課題



◆ 門松を作成する

1. 成 果

(1) 生徒に関することについて

- ① 意見を出すことへの抵抗感が減り、意見を出すために、周りの意見をよく聞くようになった。
- ② 自分の役割を認識し、将来の自分像を描くことにつながった。
- ③ 友達や地域の方との交流を素直に楽しむことができ、様々な活動を通して周りの良さに気づき、これから自分の目指す姿につなげようとする気持ちが表ってきた。
- ④ 学んだことを家庭に持ち帰り、学びを広げていくことができた。
- ⑤ 関わってくれた方への感謝の気持ちをもち、主体的に授業に臨む姿が見られた。

(2) 外部講師や地域との連携した授業づくりや交流活動について

- ① 地域の方の学校教育への関心と理解を

深めたり広げたりするとともに、地域の新たな力を発掘することができた。

(新たな人材の紹介、アイディアの提供等)

- ② 外部人材（専門家）の授業への参画によって、生徒のみならず教師も知識や理解を深めることができた。
- ③ 企画・運営の面で様々なアイディアに触れることができ、教師側の意識改革やスキルアップにつなげることができた。
- ④ 教師が研修や授業を楽しみ、教師間の会話が増えた。
- ⑤ 地域の方にも喜んで参加していただくことができた。

2. 課 題

- ① 充実した学習を進めるために、学びを支える基本的学習習慣（話を聞く）、基本的生活習慣（挨拶、返事、言葉遣い、時間を守るなど）、及び基礎学力（書く・話す）を定着させること。
- ② 体験することが目的にならないよう、常に学習の目的や将来の自分とつなげて学ぶ意義を考えさせること。
- ③ 防災教育・防災訓練については、学年ごとのねらいを明確にし、指導計画を確立していくこと。また、教科横断的な学習の視点から、学びのつながりを意識していくこと。
- ④ 協力していただく地域団体（組織）との連携を強化していくこと。その際、打ち合わせの時間を確保すること。
- ⑤ 地域防災訓練や交流会だけでなく一連の防災学習にも地域の方と一緒にに入っていただけるような工夫をすること。

（教務主任：小野秀俊）